

# 木村家 歴史探訪報告書

## 【想定される祖先】

宇多天皇 (867~931年) を祖とする近江源氏佐々木氏支流の木村家

行政書士 丸山 学

木村〇〇様

この度は、家系図作成をお申込み頂きまして、ありがとうございます。戸籍・除籍簿は無事にすべて取得できまして立派な家系図になりました。但し、今後も是非、江戸時代そしてそれ以前まで家系をたどりご自身がどのようなご先祖のもとに今生きているのかを実感していただけると嬉しく思います。

そこで、今回の調査を踏まえまして、木村様の「想定される祖先」と「今後ご自身で調査される際のポイント」をご報告させていただきます。この書面を保管しておいていただければと思います。

まずは、想定される木村様の祖先についてですが、

### 宇多天皇 (867~931年) を祖とする近江源氏佐々木氏支流の木村家

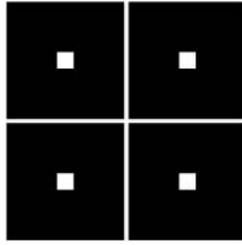
の可能性が高いのではないかと考えられます。以下、その理由をご説明させていただきます。

木村様は特殊な事情によりご祖父以前の家系も居住地もまったく不明とのことでした。

しかし、戸籍をたどってみると、やはりというべきか幕末から明治にかけてのご先祖様は滋賀県（近江国）に居住されていました。

「やはり」と申しあげましたのも、木村様と最初にお話させて頂きました時に「自分の家の家紋もよく分からないのですが、おぼろげな記憶としては四角形が4つ固まったようなものだったと思います…」と、おっしゃっていたからです。

おそらくは「四ツ目」という家紋であろうと思います。



※これは「平四ツ目」という紋です  
菱形にしたものなどいくつかバリエーションがあります

「四ツ目」紋といえば、「佐々木氏」の代表家紋です。

なぜ、「佐々木氏」のお話をするかといえば、「木村」という姓は全国各地にあります。その代表として近江国（滋賀県）伊那郡木村から起こった木村姓があります。

そして、この近江国の「木村氏」は宇多源氏佐々木氏の支流から生まれた家だからです。ですから、家紋が「四ツ目」で姓が「木村」となれば近江の佐々木氏を祖にもつと推定されます。それゆえ、木村様の祖は滋賀県のほうではないかと推測しておりました。

ちなみに「源氏」というのは、皇族賜姓の一つでして皇室外に出た皇子（天皇の子）に対して贈る姓です。皇子といえども全員を皇室に残らせることは出来ずに特別の姓を与えて世間に送り出す訳です。「源（みなもと）は天皇家と同じだよ」という意味合いが込められているのです。

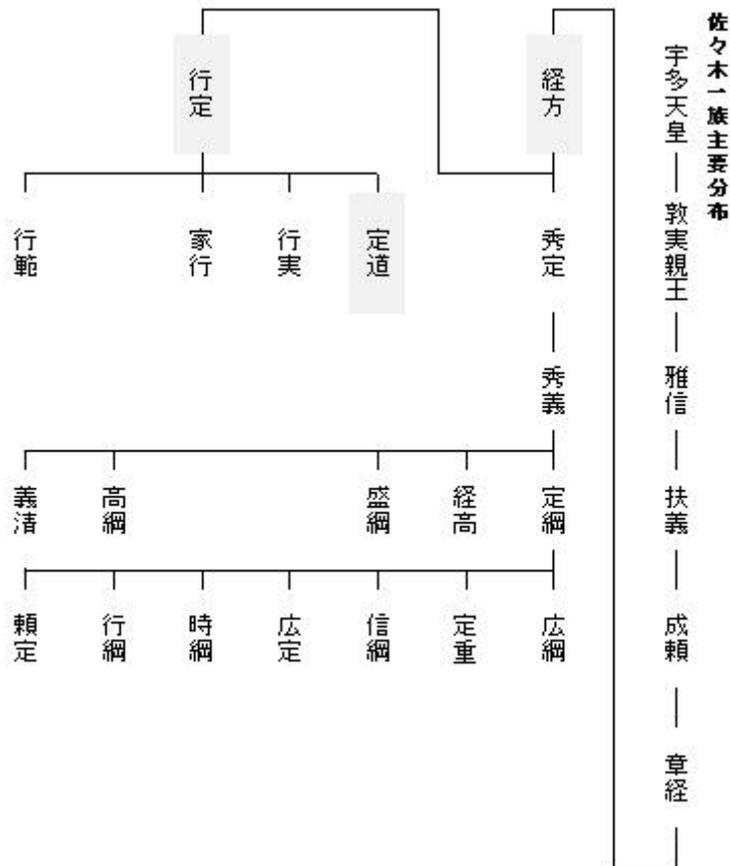
したがって、木村家の元となっている近江の宇多源氏とは宇多天皇を祖に持つ家系ということになります。もし、木村〇〇様の家が代々、江戸時代やそれ以前にも木村姓を名乗り四ツ目を使用していたならば、その末裔である可能性は十分に高くなります。



有名な「佐々木系図」によれば、左記のようになります。

この「経方」の上は「章経」「成頼」「扶義」「源雅信」「敦実親王」「宇多天皇」へとつながっていきます。

ちなみに、宇多天皇から始めると下記のような系図になります。



成俊のところで伊那郡木村に土着し、以降「木村」を名乗りました。

さて、次に今後さらに戸籍を越えて木村〇〇様が江戸時代そしてそれ以前の家系をたどり本当に宇多天皇に行き着くのかを確認していく際のアドバイスを記させていただきます。

それは、

## 江戸時代及びそれ以前に木村姓を名乗っていたか？四ツ目紋を使用していたか？を確認していく

という事です。

確かに前述のとおり、苗字、江戸時代の居住地、家紋等から推測して宇多源氏を祖とする佐々木氏の末裔かと思われるのですが、戸籍だけを調査した現段階では確実ではありません。

もしかしたら、木村家に仕えていた家柄で明治になり苗字が必要になった際に同じ苗字を主君からいただいただけという可能性もあります。(家紋も同様です) その場合にはまったく宇多源氏とつながらなくなります。

ですから、やはりさらに踏み込んだ調査が必要になります。

以下、ご自身で調査を進められる際のアドバイスとなります。

古典的な手法ですが、まず、●●村近辺の木村姓の家に手紙を出して事情を説明し手がかりをもらうというのが良いと思われます。

効果的な文面の書き方は同封した雛形をご参考にしてください。これにより、戸籍で判明したご先祖様のお名前を出して尋ねれば「それは代々の木村家の分家だよ」とか「おそらく木村家本家に仕えていた使用人ではないか」など事情を知る人が出てくるケースがあります。

また、ご先祖様のお名前を手がかりに●●村近辺のお寺、神社をあたる手がかりがつかめる可能性大です。お墓が見つければ古くから四ツ目の家紋を使用していたかどうかとも判明します。

そうすれば古くからの木村姓であり佐々木氏流である可能性はやはり高いといえます。お寺、神社でも事情をよく説明し礼を尽くすことは言うまで

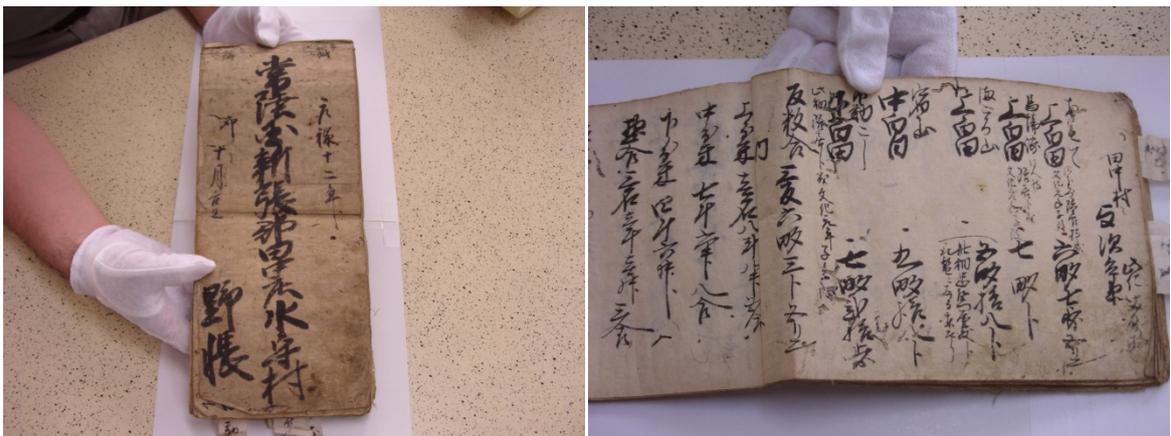
もありません。(お布施等もお忘れなく)。

地方では、お寺の他にも小さな山や林の中にお墓が立っていることも珍しくありませんので現地調査に出向く場合には丸1～2日の時間はとっておきたいところです。

さらに、現地に入る前に●●村の江戸時代の名主になっていた家はどこかを確認し、コンタクトをとっておくとよいでしょう。(名主は代々一つの家が世襲していた村もあれば、複数の有力な家が持ち回りで努めていたケースもあります)

名主の家では江戸時代の「検地帳」や「宗門人別改帳」などの古文書を保管している可能性があります。そこに戸籍で判明したご先祖様の名前が見つけれられるかもしれません。それによってご先祖様のその時代の立場も見えてきます。

それから、武士である場合には藩の「分限帳」(地元の図書館に問い合わせれば存在しているかどうか分かります)の中にお名前を見つけることが出来る筈です。(こうした古文書を拝見させていただく時には必ず戸籍で判明したご先祖様のお名前を「くずし字」にしたものを持参しましょう。古文書には「くずし字」で登場する筈ですので)



上記は私(丸山学)が個人で所蔵している検地帳(元禄12年)。

古文書の文字はこのような感じでした。

もし、現地調査で江戸時代から木村を名乗り四ツ目紋を使用していたならば近江源氏佐々木氏につながる可能性が高いといってよいでしょう。そこをポイントとして江戸時代以前の調査を進めてください。

ところで、名門「佐々木氏」につながるか否かは別として滋賀県に行きましたら安土町の『沙沙貴神社』に参られることをお勧めいたします。沙沙貴神社は、佐々木氏一族の祖神を祀っています。祭神は宇多天皇、敦実親王など五柱です。毎年10月10日には全国から佐々木さんが集まって祭典を開きます。何か感じるものがあるかもしれません。

それでは、ご自身で江戸時代以前の調査を開始されたときには是非、ご報告をお願いいたします。楽しみにしております。

行政書士 丸山 学

※実際には、今後の調査方法につきましては、さらに詳細なアドバイスを付け加えてお渡ししております。重要なノウハウになりますので、ここでは割愛させていただきますことお許しく下さいませ。